

# 孤立の村を巡回診療

AMDA活動報告

## 救える命があれば

### いづくでも

□11□

菅波 茂



十月二日から九日にかけて、グアテマラ共和国でハリケーン「スタン」による豪雨災害が発生した。国連報告によれば、死者・行方不明者は千五百十三人（うち死者六百六十九人）、被災者は四十七万四千九百二十八人上った。

AMDAカナダ支部長のウイリアム医師からメールが入った。「医療従事者を一人待機させてい

る。本部は医療チームを派遣するののか」と。即断を迫られ、こう返答せざるを得なかった。「本部は、パキスタン北部地震被災者救援活動をネパール、バンクーレンシユ、イ

## グアテマラのハリケーン

ンドネシアそしてパキスタン各AMDA支部と実施中。動員可能なコーディネーターは全員派遣している。余力なし」

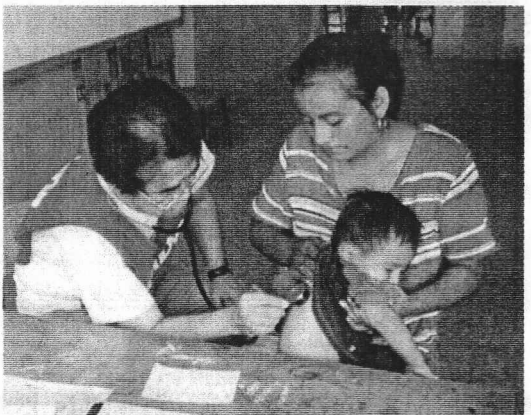
同月十二日、今度は国際協力機構（JICA）グアテマラ事務所長の三澤吉孝氏からメールが入った。「被災地在住の日本人から連絡が入っている。被災地では消化器伝染性疾患がはやってい

る。AMDAの医療チーム派遣は可能だろうか」と。三澤氏はJICA中国（広島県）での勤務経験がありAMDAをよく知っておられた。「救える命があればどこへでも」のスローガン

を泣かせてはいけない。すぐに沖縄支部長の大神良一先生とホンジュラス支部に連絡をした。グアテマラに医療チームを派遣したい。協力をお願いしたい」

十一月八日に沖縄支部からペルー出身で日系二世の渡久地宏文医師、七日にはホンジュラス支部から渡辺咲子看護師、コティネーター一人、医師一人の合計四人が被災地に向かった。孤立が伝えられている西部のサンマルコス県の標高三〇〇〇から低地まで、七カ所の村で巡回診療を実施した。

## 沖縄支部・キューバと連携



生々しいものだった。「住民が避難している教会が土砂で埋もれ、道が豪雨で遮断されていた」「感冒などの呼吸器系疾患、下痢などの消化器系、皮膚疾患をして家族をくし

「男性は少々のことでは治療に訪れないというマツチョ思想のために少なかった」「食事前や排便後に手を洗う習慣がなく、衛生教育の必要がある」

「キューバ医師団を受け入れていた。私自身もサンピアや東ティモールなどの発展途上でキューバ医師団の活躍を見ています。最近も東京のキューバ大使館から世界の人道支援活動に關して、AMDAに連携の話があったばかりである。AMDAインターナショナル、沖縄支部としてキューバ医師団との連携によって、中南米の災害被災者救援活動が迅速、的確になり、より多くの人たちのお役に立てると思っている。パキスタン北部地震があっても沖縄支部に相談して、もっと早い段階で医療チームを派遣すべきだったと反省している。ただし、海外のJICA事務所と連携して災害救援活動を実施したのは初めてだった。これが良き前例になるとを期待している。AMDA（アジア医師連絡協議会）理事長

この連載は毎月第四日曜日に掲載します。